

糖尿病実態調査の概要

■ 「糖尿病実態調査」とは

本県では、糖尿病の死亡率・受療率とも全国上位となっており、糖尿病重症化予防対策が喫緊の課題となっています。また、新型コロナウイルス感染症の影響も懸念されます。

前回（平成28年度）の糖尿病実態調査を実施してから6年が経過していることもあり、**通院中で20歳以上の2型糖尿病患者に対する医療機関の支援実施体制と患者の自己管理に与える要因の実態を明らかにすることで、糖尿病重症化予防対策への知見を得ることを目的に調査を実施しました。**

（実施期間：令和4年10月3日～10月22日）

(1) 糖尿病の指導等に関する調査（医療機関用）

県内の内科を標榜する病院、診療所のうち、介護施設に設置の医務室等を除く461（病院78、診療所383）医療機関を対象として、**229（病院47、診療所178、不明4）医療機関（回収率49.7%）**の回答がありました。

(2) 糖尿病の療養状況調査（医療機関及び患者様用）

(1)の医療機関で受療している20歳以上の2型糖尿病患者を対象として、243医療機関から**1,488名**（平均年齢64.7歳）の回答がありました。

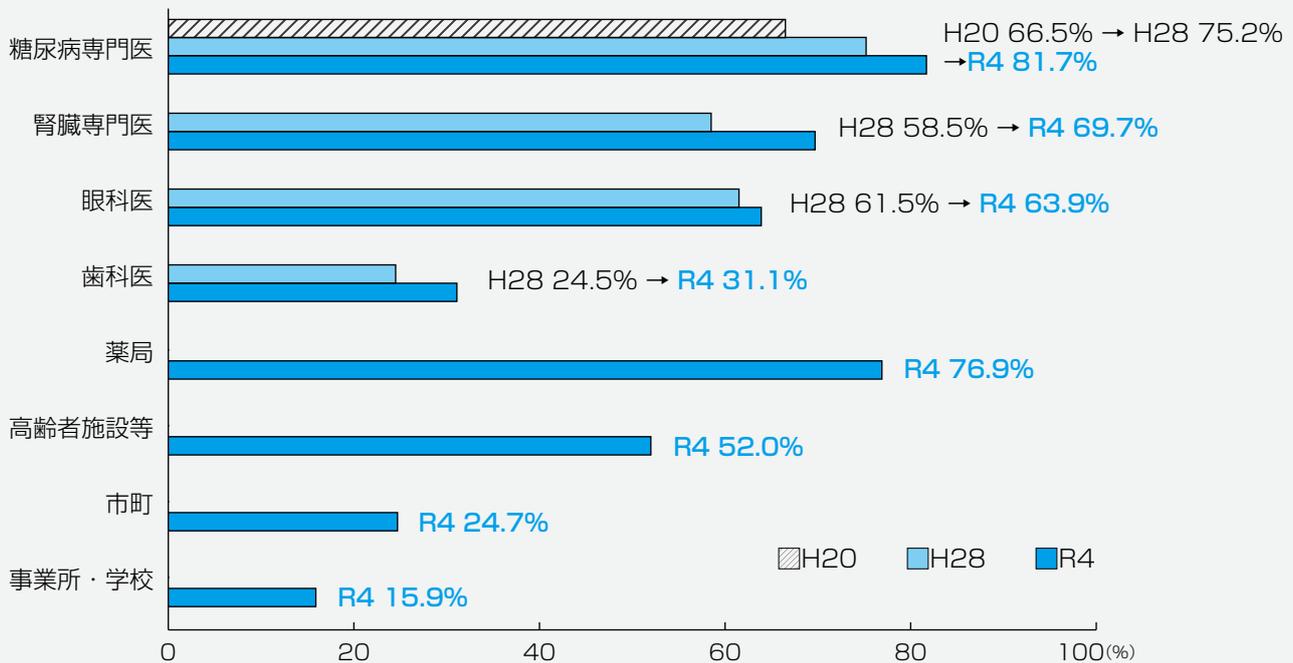
■ 共催 香川県糖尿病対策推進会議

今回の調査からわかった主なことから

- 前回調査より**医療機関と他機関の連携は促進された**
- 医療機関と**歯科医、市町、事業所・学校等との連携は課題**
- **新型コロナウイルス流行下で血糖コントロールが悪くなった患者が約4割**
- 前回調査と同様、**糖尿病で受診したきっかけの半数は健診**
- **受診を勧められた人の8割以上がすぐに受診した**
- 「**自分なりの方法が分かり、目標を決め、効果が実感できたこと**」と「**家族の協力**」が患者の自己管理の意欲を高める
- 「**仕事や学業の忙しさ**」「**面倒さ**」「**必要性が分からないこと**」「**金銭的に余裕がないこと**」「**身体不良の重なり**」「**家族の協力不足**」が自己管理の意欲を下げる

主治医と専門医等との連携は促進

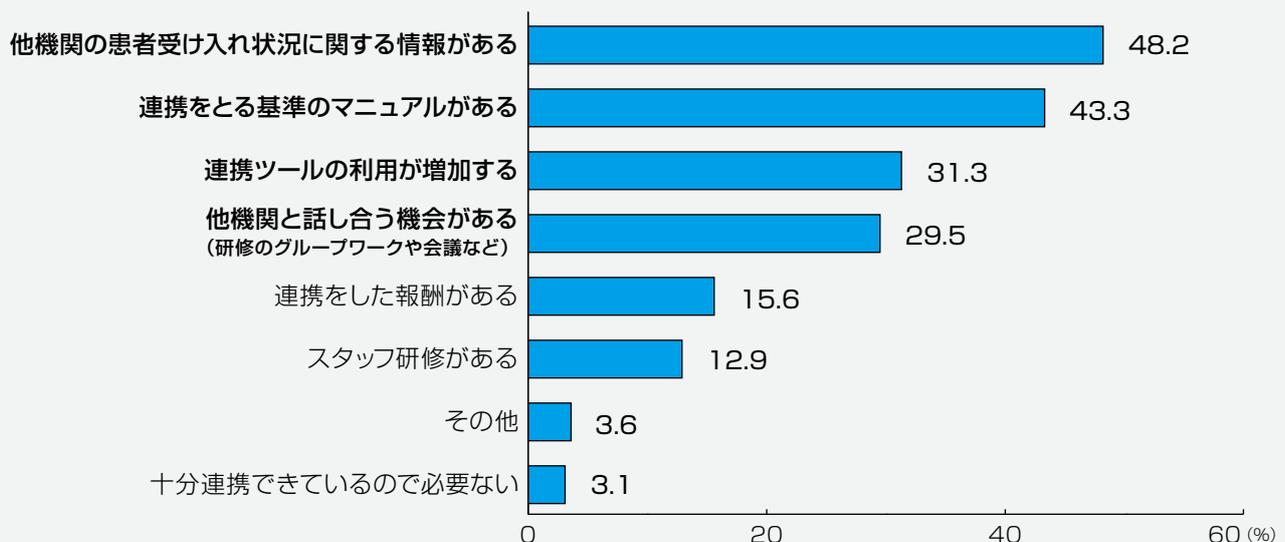
図1 他機関との連携が「十分できている」・「ある程度できている」割合



前回調査と比較して主治医と専門医や他の診療科との連携は促進されていましたが、歯科医、市町、事業所・学校との連携はまだ進める余地があります。

お互いに情報共有できる環境整備が重要

図2 今後、他機関とより連携をとるために必要なこと (複数回答)



他機関との連携をとるために必要なことは、「他機関の患者受け入れ状況に関する情報がある」が 48.2%、「連携をとる基準のマニュアルがある」が 43.3%、「連携ツールの利用が増加する」が 31.3%でした。今後、連携を進めるには、まずはお互いに情報共有のできる環境整備が重要です。

医療機関が感じる、コロナ流行下で 血糖コントロールが悪化した患者は約4割

図3 受診患者数の変化

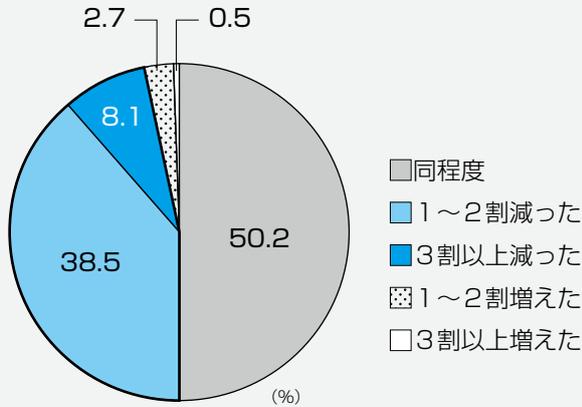
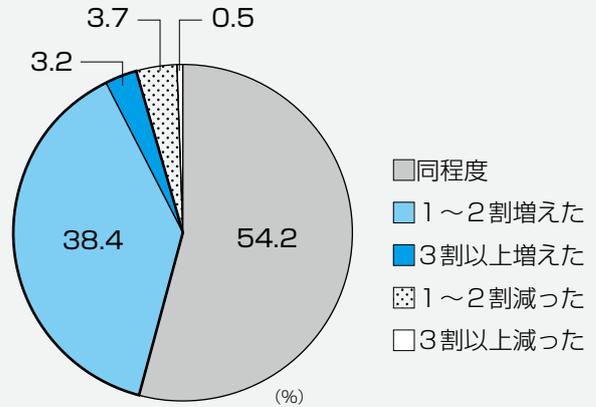


図4 血糖コントロールが悪化した患者数の変化

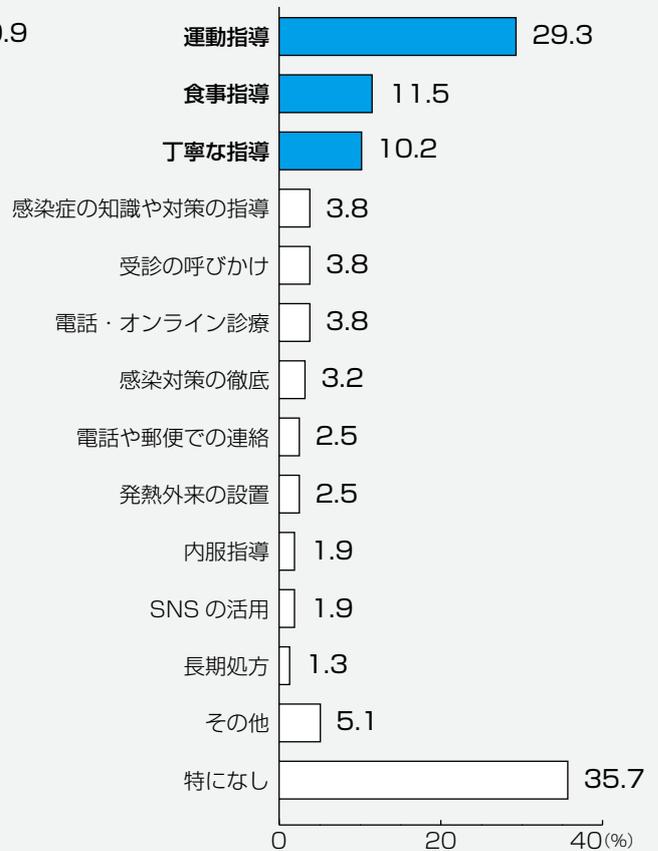


新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、患者数が減ったと感じた医療機関が約5割あり（図3）、患者の血糖コントロールの悪化を感じた医療機関が約4割ありました（図4）。

図5 患者の自己管理の変化（複数回答）



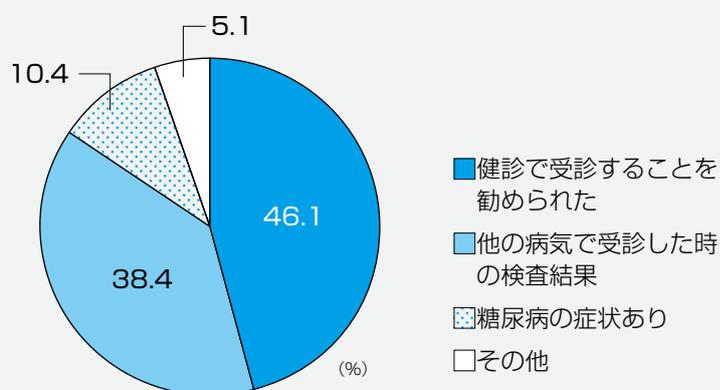
図6 患者の自己管理の変化に対して実施した取組み（工夫）（複数回答）



約6割の医療機関で患者の運動不足、筋力低下を感じ（図5）、運動指導を強化した医療機関が約3割ありました（図6）。

糖尿病で受診したきっかけの半数は健診

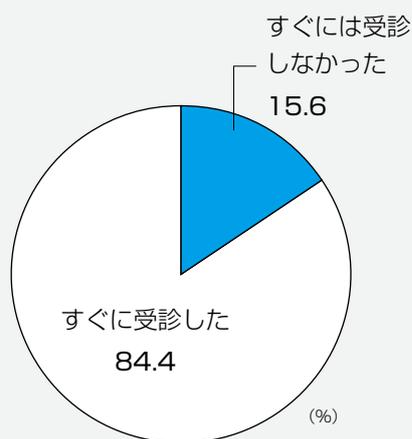
図7 糖尿病の受診のきっかけ



糖尿病の受診のきっかけは、「健診で勧められた」が46.1%（図7）と前回調査と同様の傾向がみられました。

受診を勧められてすぐに受診した人は約8割

図8 受診を勧められてすぐに受診したか

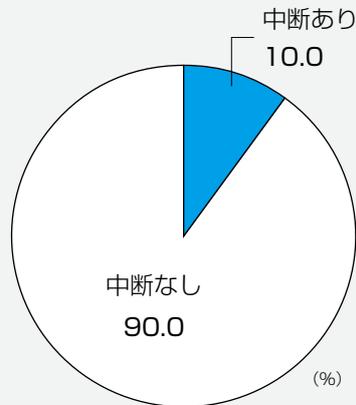


健診や他の病気で受診を勧められてもすぐ受診しなかった患者は15.6%でした（図8）。

また、すぐに受診できなかった理由は、「特に症状もなく受診の必要はないと思った」が66.7%、「仕事や用事で時間が取れなかった」が45.4%でした。

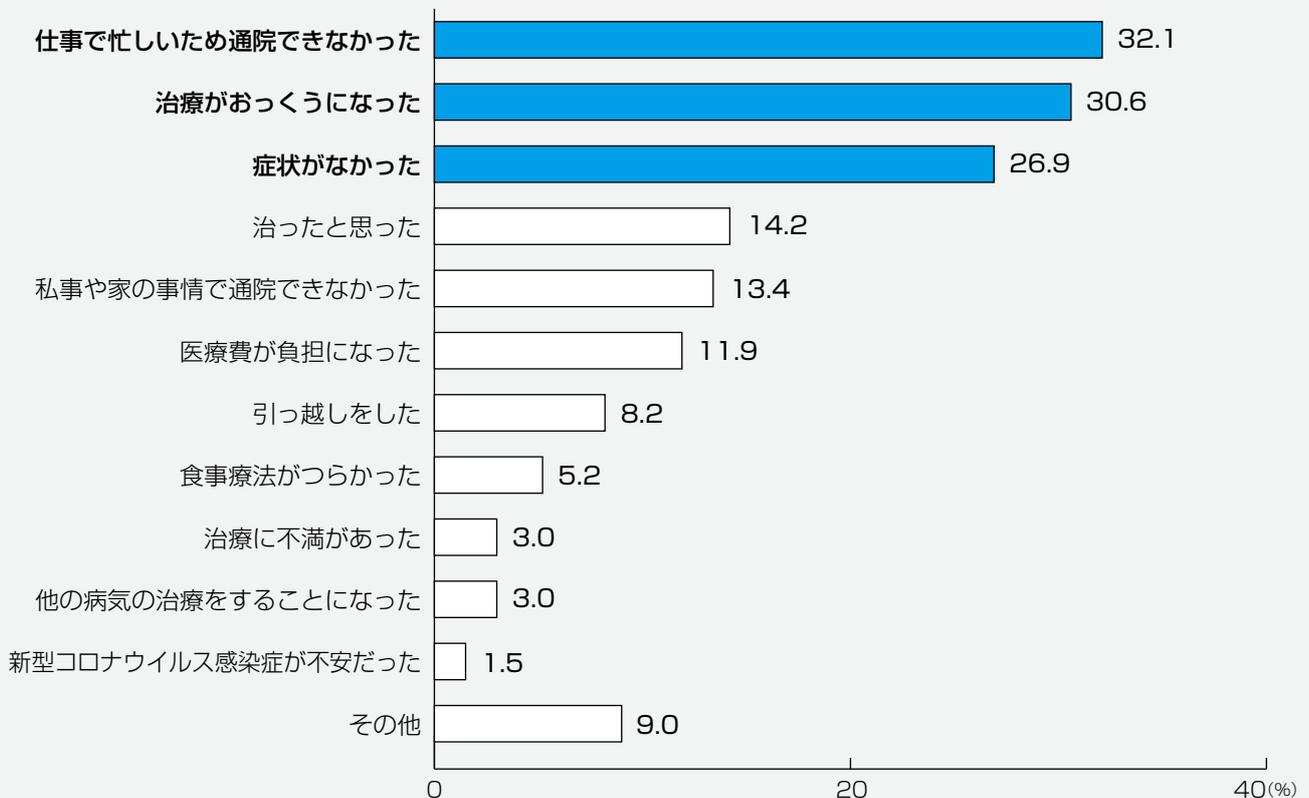
治療中断の経験は約1割

図9 糖尿病の治療を中断したことがある患者の割合



糖尿病の治療中断したことがある患者は 10.0%で、糖尿病と初めて診断された平均年齢は 52.1 歳、治療を中断した平均年齢は、49.7 歳でした (図9)。

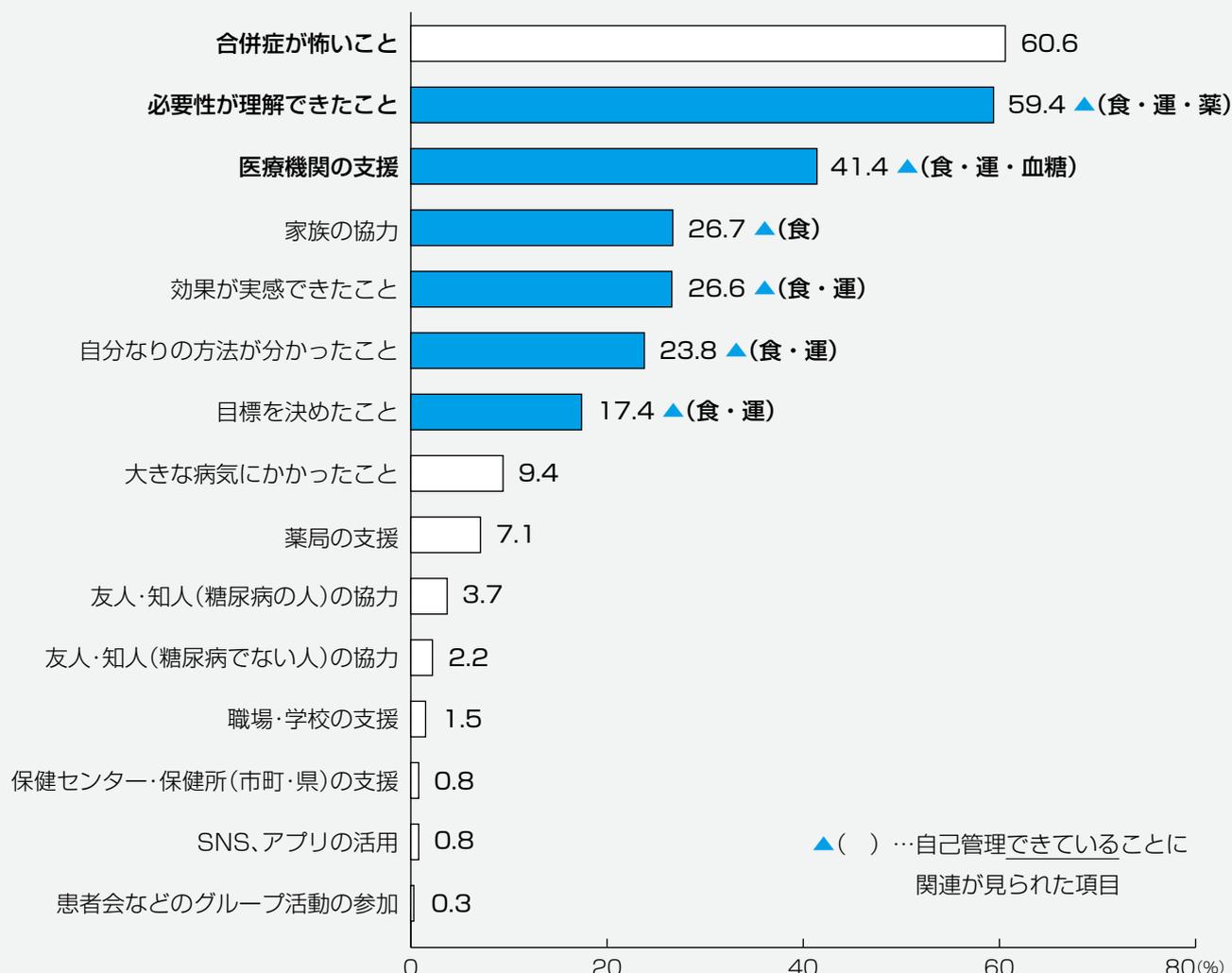
図10 糖尿病の治療を中断した理由 (複数回答)



中断した理由は、「仕事で忙しいため通院できなかった」が 32.1%で最も多く、男性では 37.5%となっていました。女性では、「治療がおっくうになった」が 39.1%となっていました (図 10)。

患者の自己管理の意欲を高めていること

図11 自己管理の意欲を高めていること（複数回答）



自己管理の意欲を高めていることとして、「合併症が怖いこと」が 60.6%、「必要性が理解できたこと」が 59.4%、「医療機関の支援がある」が 41.4%でした（図 11）。

「必要性が理解できたこと」「医療機関の支援がある」「家族の協力がある」「効果が実感できたこと」「自分なりの方法がわかったこと」「目標を決めたこと」と回答した人は、食事の自己管理ができていると回答した割合が高くなっていました。

また、「必要性が理解できたこと」「医療機関の支援がある」「効果が実感できた」「自分なりの方法がわかったこと」「目標を決めたこと」と回答した人は、運動の自己管理ができていると回答した割合が高くなっていました。

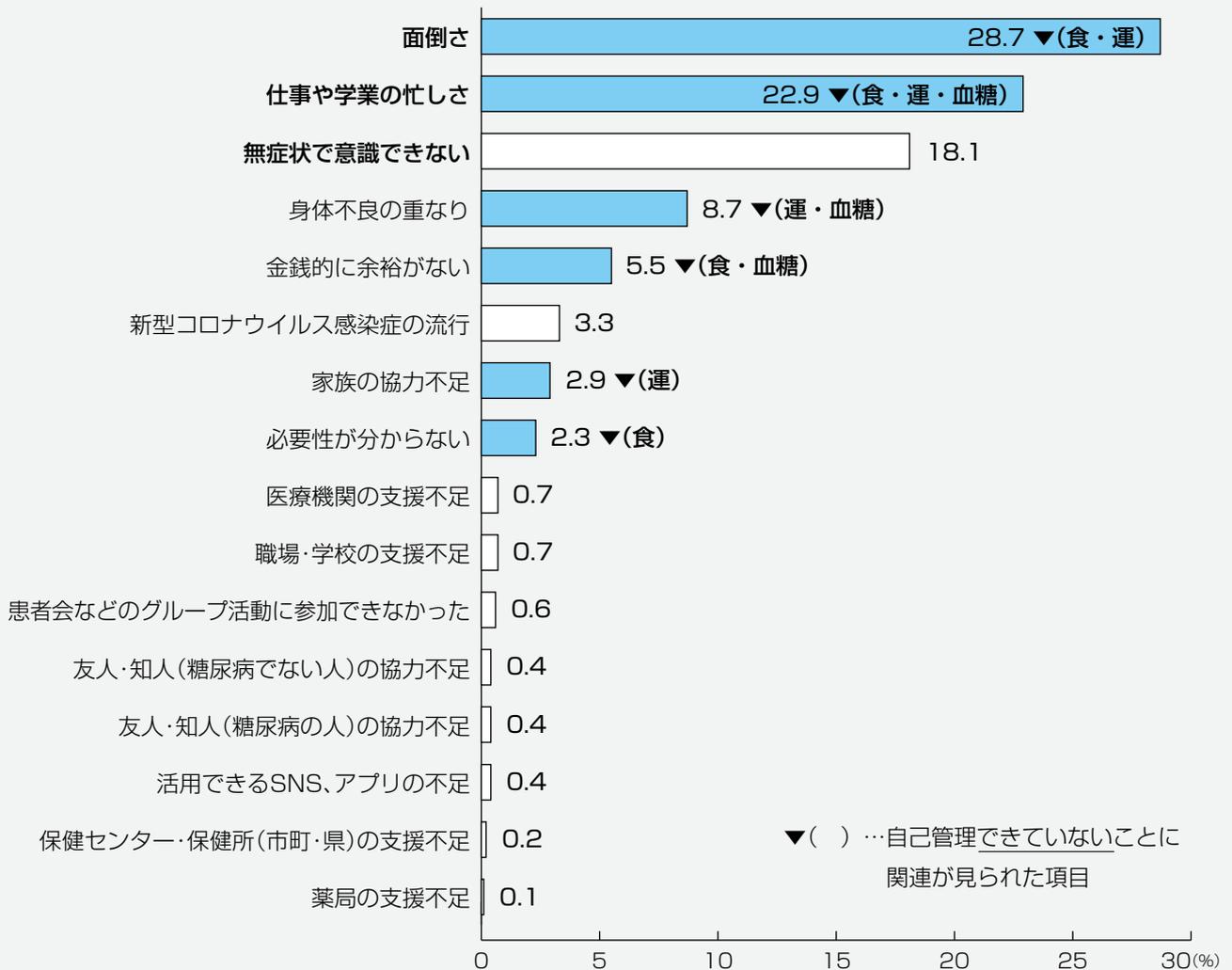
加えて、「必要性が理解できたこと」と回答した人は、薬の自己管理ができていると回答した割合が高くなっていました。

さらに、「医療機関の支援がある」と回答した人は、良好な血糖値の維持ができている人の割合が高くなっていました。

糖尿病の患者・家族に対して、自己管理の必要性の理解を促し、自己管理目標や行動変容を共に考え、成功体験と一緒に確認しながら支援することが重要です。

患者の自己管理の意欲を下げていること

図12 自己管理の意欲を下げていること（複数回答）



自己管理の意欲を下げていることとして、「面倒さ」が28.7%、「仕事や学業の忙しさ」が22.9%、「無症状で意識できない」が18.1%でした（図12）。

「面倒さ」「仕事や学業の忙しさ」「金銭的に余裕がない」「必要性が分からない」と回答した人は、食事の自己管理ができていないと回答した割合が高くなっていました。

また、「面倒さ」「仕事や学業の忙しさ」「身体不良の重なり」「家族の協力不足」と回答した人は運動の自己管理ができていないと回答した割合が高くなっていました。

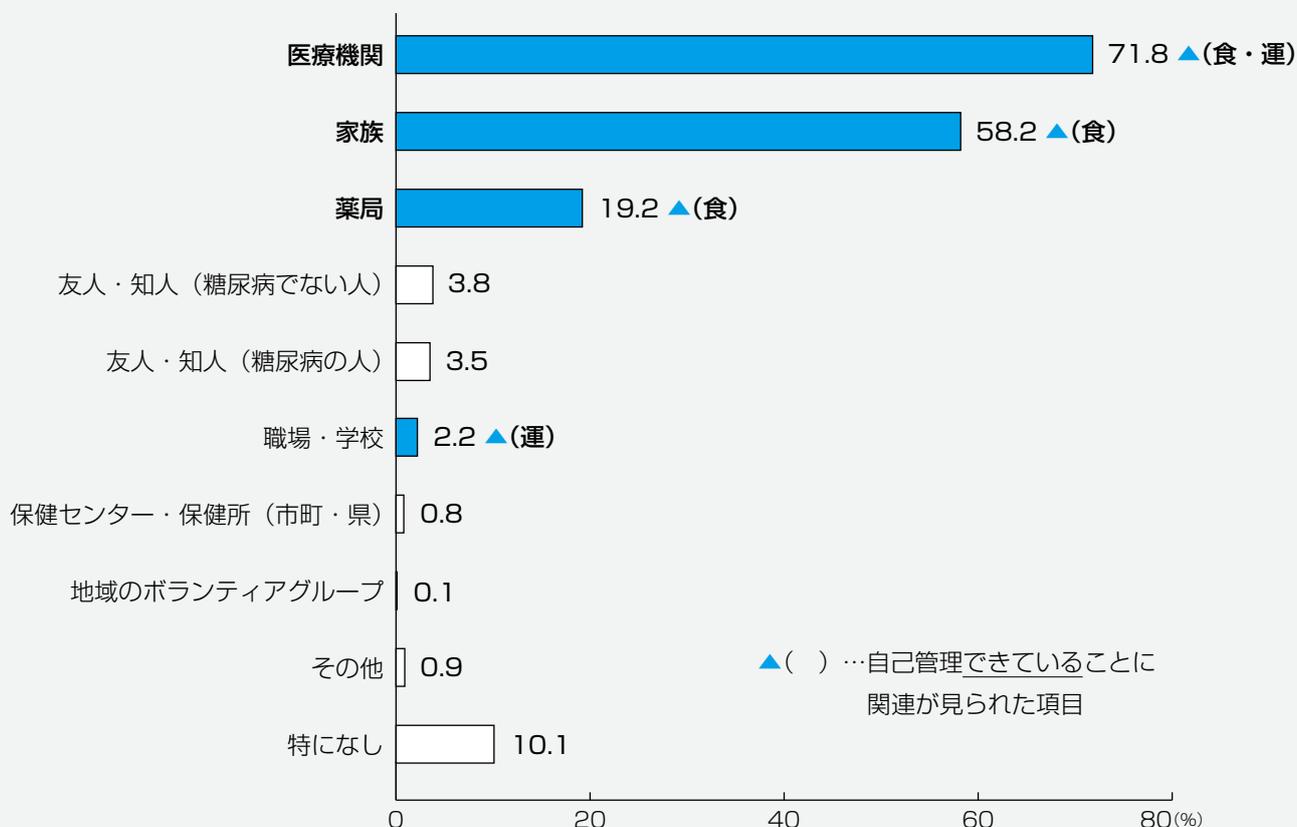
さらに、「仕事や学業の忙しさ」「身体不良の重なり」「金銭的に余裕がない」と回答した人は、良好な血糖値の維持ができていない人の割合が低くなっていました。

患者の努力や家族の協力だけではなく、会社や学校といった所属組織が受診しやすい環境や、健康的な食事や運動をする機会を整備するなど、組織的に支援することが重要です。

また、患者の手に入る食材でも健康的な食事をとることが可能な環境整備等、経済格差が健康格差とならないようにすることが重要です。

糖尿病の生活を支えてくれる人は家族、医療機関、薬局

図13 糖尿病の生活を支えてくれる人（複数回答）

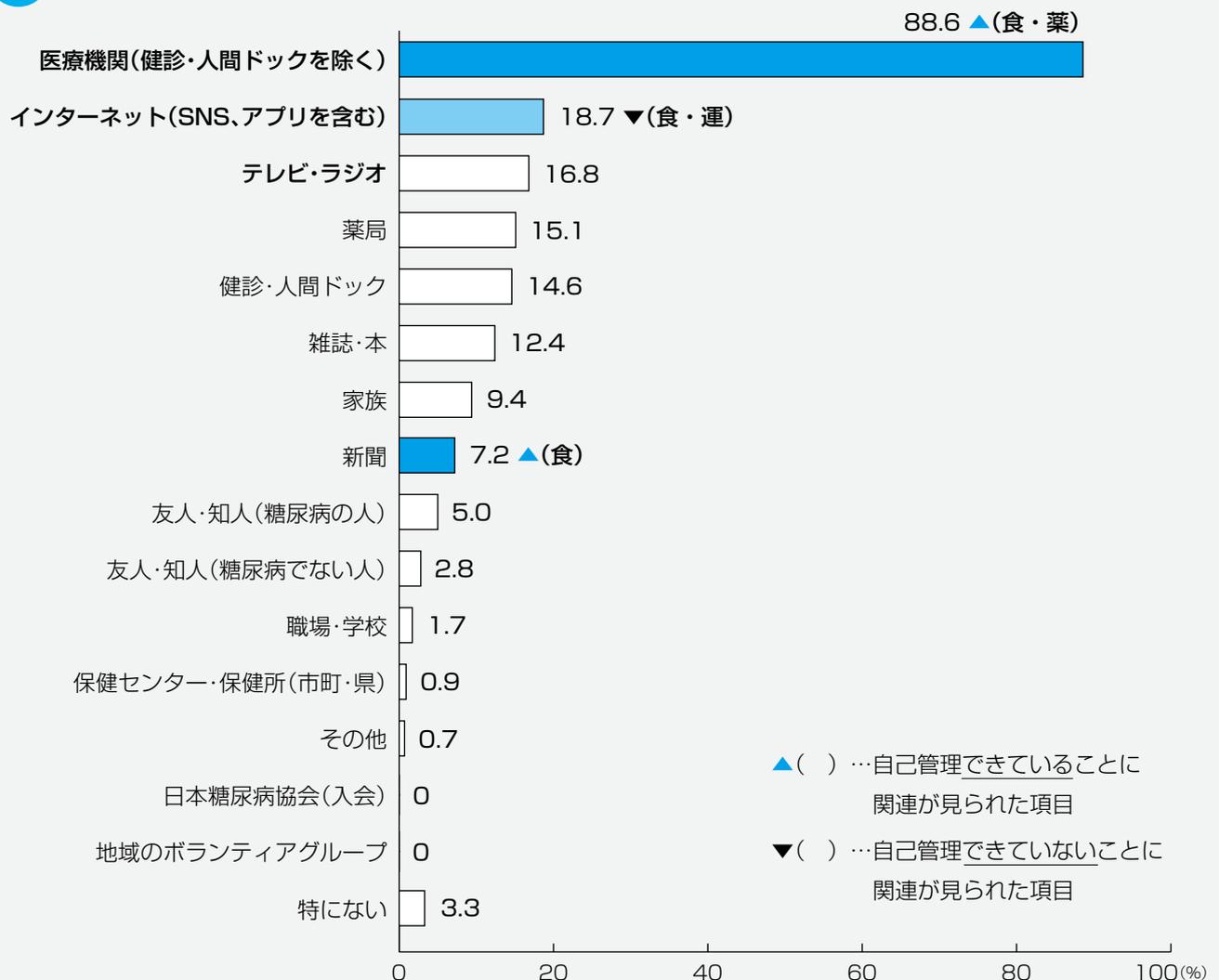


糖尿病の生活を支えてくれる人として、「医療機関」が71.8%、「家族」が58.2%、「薬局」が19.2%でした（図13）。

食事の自己管理ができている人は「医療機関」「薬局」「家族」の支援があると感じていました。
また、運動の自己管理ができている人は「医療機関」「職場・学校」の支援があると感じていました。

糖尿病についての情報を得る手段は医療機関が約9割

図14 糖尿病についての進行予防や治療に関する情報を得る手段（複数回答）



糖尿病についての情報を得る手段として、「医療機関」が最も多く 88.6%、「インターネット」が 18.7%、テレビ・ラジオが 16.8%でした（図 14）。

「医療機関」からの情報は食事と薬の自己管理に役立っており、「新聞」の情報は食事の自己管理に役立っていました。

一方、「インターネット」から情報を得ている人の方が食事や運動の自己管理ができている人が少ないことから、インターネット上に信頼できる機関からの正しい情報、自己管理に有益な情報を多く提供することで、インターネットから情報を得ている人にも効果的で正しい自己管理の支援につなげる余地があると考えられます。

まとめ

- ▶ 前回調査より医療機関同士の連携は進んでいることが明らかになった。
今後も、糖尿病患者の療養を支える連携体制として、**関係機関の双方向型の情報共有を促し、行政・職場・学校を含めた連携を、より一層進めていくことが必要である。**
- ▶ **新型コロナウイルス感染症による患者の筋力低下**は多くの医療機関が感じており、**血糖コントロールにも影響**が生じていた。
約3割の医療機関が運動指導を積極的に行うとともに、少数の医療機関ではオンライン診療や電話・郵便などを利用して受診が継続されるよう支援していた。
- ▶ 支援者は**患者が糖尿病の自己管理の必要性を理解し、自ら目標設定をして、効果を実感できるように支えることが大切である。**
- ▶ 現在患者の支えになっている**医療機関、薬局、職場・学校等の所属団体に加え、行政や健康に関わる企業等社会全体でも糖尿病という病気を理解し、正しく有益な情報をデジタル技術でも伝える工夫をし、患者を支える必要がある。**



*この冊子は、11月14日世界糖尿病デーのシンボルマークである「ブルーサークル」にちなんでブルーにいたしました。このマークが、国連の旗やどこまでも続く空を表す「ブルー」と、団結を表す「輪」で「糖尿病のために団結しよう」を意味しているように、香川県でも県民の皆様と支援者がより連携、連帯、団結して、糖尿病予防に取り組んでいきたいと思っております。

令和4年度糖尿病実態調査報告書はこちらから確認

かがわ糖尿病予防ナビ

検索



かがわ糖尿病予防ナビ

- 謝辞 -

本調査の企画、実施、報告書の作成に多大なる御協力をいただきました糖尿病実態調査検討会委員の皆様、調査に御協力をいただきました医療機関及び関係者の皆様に、深く感謝いたします。